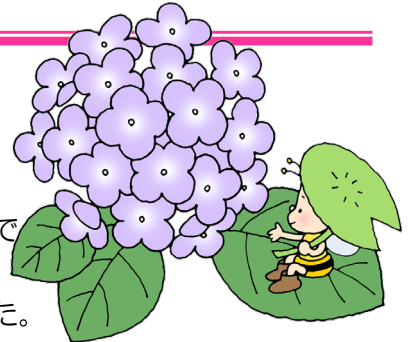




教室はまちがうところだ



やっと梅雨入りが発表され、これから本格的な雨の季節になります。レインボー旬間が行われているので、子ども達には雨の日は図書室に足を運んで読書を楽しんでほしいと思います。

体育発表会が終わり、6月に入って始まった新体力テスト期間も終わりました。昨年度、体力テストをやっていないので、1・2年生は初めての体力テストでした。ほかの学年も2年ぶりなので、残念ながら、記録は伸び悩んでいる子が多いかもしれません。それでも、6年生が1年生を連れ、5年生が2年生を連れて、テストのお手伝いややり方を教えながら、校庭や体育館を回っている姿は微笑ましく、例年通りのことを例年通りにできることは、やっぱり素晴らしいと感じました。

さて、今月の朝会では、「教室はまちがうところだ」（蒔田晋治・作 長谷川知子・絵）を紹介しました。朝会で読んだ部分を引用します。

教室はまちがうところだ

まきた しんじ



教室はまちがうところだ
みんなどしどし手を上げて
まちがった意見を 言おうじゃないか
まちがった答えを 言おうじゃないか
まちがうことを おそれちゃいけない
まちがったものを わらっちゃいけない
まちがった意見を まちがった答えを
ああじゃあないか こうじゃあないかと
みんなで出しあい 言い合うなかで
ほんとのものを見つけていくのだ
そうしてみんなで 伸びていくのだ
いつも正しくまちがいのない
答えをしなくちゃならないと思って
そういうとこだと思っているから
まちがうことがこわくてこわくて
手も上げないで小さくなって
黙りこくって時間がすぎる

しかたがないから先生だけが
勝手にしゃべって生徒はうわのそら
それじゃあちっとも伸びてはいけない
神様でさえまちがう世のなか
ましてこれから人間になろうと
している僕らがまちがったって
なにがおかしいあたりまえじゃないか
うつむきうつむき
そうっと上げた手 はじめて上げた手
先生がさした
どきりと胸が大きく鳴って
どぎどきと体が燃えて
立ったとたんに忘れてしまった
なんだかぼそぼそしゃべったけれども
なにを言ったか ちんぷんかんぷん
私はことりと座ってしまった

レインボー旬間で行われている「ちんぷんかんぷん」で、読んでみてくださる。



福栄小学校の子どもたちはとても素直でかわいらしく、休み時間には友だちや先生とたくさん話すのだけど、授業中の発表が少ないという声をよく聞きます。私も教室を回っていると、ちょっと残念に思います。指名すると答えられる場合も多いので、もしかしたら、少し自信がないのかなと思ってこの本を紹介しました。この部分の最後「私はことりと座ってしまった」の後、「みんなの教室ではどうですか？笑ったり、攻撃したりする人はいないでしょう。きっと、心の中で応援してくれますね。」と話しました。そして、「この後『ほかの意見があります！』『わたしは、〇〇さんとは違ってこう思います。』と言われても、それは、意地悪を言われているわけでも、攻撃されているわけでもありません。違う意見があるからこそ、いい案ができてくるのです。『なるほど、そういう考え方もあるんだな。他にないかな？』と考えることも大切です。」と話しました。

学校では、各担任が、安心して発表できる学級づくりを目指しています。子どもたちには、いろいろな意見を言い合い、受け入れ合い、考え合う中で、自分に自信を持ち、考えを広げてほしいと思っています。

第2回 避難訓練

10日(木)2回目の避難訓練が行われました。今回の避難訓練は、不審者の侵入を想定したものです。

本校では初めて行徳警察の方にお越しいただき、不審者役と取り押さえる警察官役をやっていただきました。

合言葉の放送が流れると、各教室で鍵を閉め、ドアの窓を小黒板などで目隠しし、子どもたちは静かにしていました。職員が不審者役に説得を重ねながら校内を一回りし、2階ピロティー前で警官役が到着して捕獲・・・という手順でしたが、子どもたちにとっても、職員にとっても大変有意義なものとなりました。

この経験が、生かされることがないことが一番ですが、やはり訓練は大切だと改めて感じました。これからも、子どもたちの安全を守れるように、改善を重ねていきたいと思えます。



なかよしグループ



10日(木)のロング昼休みに、仲良しグループの顔合わせをしました。

なかよしグループ活動は、1年生～6年生までの縦割り活動です。昨年度は、さんねんながら1度もできませんでしたが、今年度は、感染予防に注意しながら、少しでもやっていきたいと考えています。

他の学年にもなかよしができる、学校全体が仲良くできればいいと思います。

名札を2枚配付しました

保護者用の名札を2枚配付しました。ホルダーもPTA会費より購入していただきました。校内の不審者対策ですので、学校にお越しの際は、必ず着用してください。



「啐啄同時」

「啐啄同時」という四字熟語があります。「そったくどうじ」と読みますが、「意味は？」と問われても、ほとんどの人はわからない熟語かとも思います。

「啐啄同時」とは「禅」の言葉であるらしく、

「啐」は雛鳥が内側から卵の殻をつつくこと。

「啄」は親鳥が外側から卵の殻をつつくこと。

だそうです。ではそれが、「同時」とはどういうことでしょうか。

雛鳥は、卵の中で少しずつ成長し、もう外の世界に出たい、自分の力で生きたいと殻をつつきだします。

親鳥は、我が子がスムーズに殻から出られるように外側からつつき、その手助けをしてあげます。

その作業を同時に行うことが「啐啄同時」です。

ここで問題なのが、そのタイミングです。子がつついてもないのに、あるいはまだつつき方が弱いのに、親が先回りして殻を壊してしまったり、子は生まれてくることはできません。また、子が一生懸命殻をつついて壊そうとまさに必死なのに、それに気づかず放置するのも親の姿とはいええないでしょう。

つまり、早すぎてもダメ、遅すぎてもダメ、親子のつつくべきタイミングがぴったりと合って殻を壊す、それが「啐啄同時」なのです。

児童の皆さん、もう少しずつ自らの殻をつついていきますか。皆さんはこれからどんどんと伸びていく力を秘めています。やがては親元を離れ、自立して自分の責任で生きていきます。けれどもまだ完全に独り立ちではできません。殻を壊すには親の助けが必要です。あせらず、背伸びをせず、しっかりと殻の中で成長して下さい。

保護者の皆さん、我が子のつつく度合いをつかんでいますか。先回りして手助けしてあげるのではなく、いつまでも傍観していることでもなく、また他の子と比較することでもなく、我が子のペースをしっかりと観察し、殻を壊す最善の支援ができるよう見守ってあげてください。

「啐啄同時」、私たち教員も心得ておくべき言葉です。

教頭の
つれづれなるままに...